

第 2 6 3 回 都市懇サロン レポート	『地域のまちづくりとファイナンス』 ～「WAKUWAKU やまのうち」の取組事例～		
講 師	岡嘉紀地域経済活性化事務所株式会社 代表取締役 岡 嘉紀 さん	開 催 日	2022 年 9 月 6 日（火） 18：00 ～ 20：00
講 師 プロフィール	兵庫県南あわじ市出身。関西学院大学経済学部 を卒業後、繊維メーカー、投資会社、コンサルテ ィング会社、政府系ファンドを経て、個人事務所 を設立。現在、フリーランスとして、地域活性化 ファンドの運営、まちづくり会社の経営、新事業 のプロデュースなどに従事。		
お 話 の 概 要	<p>1. 地域活性化ファンド</p> <p>①「ALL 信州観光活性化ファンド」：長野県における観光産業の活性化 http://www.revic.co.jp/business/fund/14.html</p> <p>②「広域ちば地域活性化ファンド」：白浜フローラルホール（南房総市）のダンス合宿 http://www.revic.co.jp/business/fund/12.html http://shirahamafh.com/</p> <p>③「かながわ観光活性化ファンド」：富士屋旅館（湯河原町）の再生を核とした面的活性化 http://www.revic.co.jp/business/fund/31.html https://fujiyaryokan.jp/</p> <p>2. ファンド等を活用した面的活性化の先行事例としての「WAKUWAKU やまのうち」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・湯田中温泉（長野県山ノ内町 人口約 1.3 万人）は東京から約 4 時間の距離。 ・山ノ内町の観光客（2014 年）は、スキーブーム以降（1990 年比）で 46%減少した（休廃業した店舗や空き家が増加）。 ・2015 年、地獄谷野猿公苑（「スノーモンキー（温泉に入るニホンザル）」の見学）に年間約 8 万人の外国人観光客が訪れたが、湯田中温泉郷の宿泊者は約 1 万人に留まり滞在環境整備の取組が始まる。2017 年 2 月までに 5 施設（案内所、カフェ、ビアバーなど）に地域活性化ファンドから約 1.5 億円の投融資が行われた。 ・地域の課題（担い手不足、稼ぐ仕組みづくり、地域のしがらみ）に向き合いながら、各店舗を担っていた若者が独立（事業や物件を買い取り）し活動を継続している。 ・取組開始後の変化（宿泊者 約 67 千人（2017 年）⇒ 収益の良化 ⇒ 新しい施設の増加（英語表記の充実）⇒ 投資のプラス回収） <p>https://www.boj.or.jp/announcements/release_2018/data/rel180713a4.pdf https://wakuwaku-yamanouchi.com/</p> <p>3. これからの取組（講師の自己紹介）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関わっている取組（投資先 22／施設数 31／ファンド 5） ・活動内容（事業プロデュース、ファイナンス、マネジメント） ・信州での事例（白馬岩岳、蓼科、浅間温泉「OMOTO」、原村ペンションビレッジ、柵池） 		
意 見 交 換	<p>参加者の質問等から講師の解説、意見交換を行った。</p> <p>●地域再生（成功）のポイント</p> <p>⇒関係者のコミットメント（逃げない覚悟）が必要 失敗例（返済至上主義、訴訟沙汰、事業計画の不合理性、金融機関の見放し など） 地域に根づく人材の育成 3セクは事業優先の印象がある 事業スキームは臨機に应变（融資の回収期間は地域との関わりのなかで設定 など）</p> <p>●講師が地域に関わるケース</p> <p>⇒金融機関の紹介が多い（自治体の依頼は少ない）。事業の合理性の有無で関与。温泉街が多い、商店街は諏訪（長野）で関わっている。</p>		
記 録 者 の ひ と こ と	<p>紹介を頂いた事例は、地域主体の活動に投資（回収）する活性化のアプローチで、都市計画従事者の発想とは異なり、大いに参考になった。</p> <p>《都市懇サロン運営部会 委員 今井 重行》</p>		